

## 第2回柏崎市総合計画審議会・柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会概要

1 日 時 平成27年6月17日(水) 午後3時30分から午後5時45分まで

2 場 所 柏崎市役所第二分館2階 302会議室

3 出席者

(1) 委 員 18名(欠席:2名)

(2) 庁 内 市長、副市長、教育長、総合企画部長、財務部長、危機管理監、市民生活部長、福祉保健部長、産業振興部長、都市整備部長、会計管理者、ガス水道局長、消防総務課長、教育部長(欠席:議会事務局長)

(3) 事務局(企画政策課) 課長、主幹、企画係長、政策係長、企画係員2名、政策係員1名、受託事業者

4 概 要

事務局から次の事項について資料に基づき説明を行い、その後、委員による質疑・意見が行われた。

(1) 第五次総合計画の策定を目的に昨年度に行った基礎調査結果(人口推計、市民アンケート、取り組むべき主要課題)について

(2) 総合戦略の構成の概要について

発言者

発 言 概 要

### <基礎調査結果(人口推計)>

委 員: 資料中の柏崎市全体の転出数と柏崎から他の都道府県への転出者の計に差があるが、この差は県内の他市町村への転出ということによいか。

事務局: その通りである。

委 員: 県内の他市町村への内訳が確認できる資料はあるか。

事務局: データとしてはあるが、資料として用意をしていないので用意したい。

委 員: 2060年までの間、人口減少が継続するとなっているが、ある時点で増加基調となる可能性は考えられるのか。

事務局: 今回の推計結果については、政策的要因を加味していない結果であることから、審議会での議論のなかで今後の人口推計に対する方向性が示されれば、その方向性に沿った推計結果を示したい。

委 員: 原子力発電所の停止や東日本大震災による避難住民は、推計に加味されているのか。

庁 内: 原子力発電所の関連企業も含めた従業員数は5,300名程度と東日本大震災前とは変わっていない。避難者についても800名以上の多くの方々がいるが、ほとんどの方々が住民票を移していないので推計に影響は与えていないと考えている。

委 員: 今後の人口減少に対して、どのようなスタンスで対応していくのかという点を確認させてもらいたい。

庁 内: 人口減少は避けられないという認識のもとに、いかに減少を穏やかなものとしながら持続可能なまちづくりを進めていく。そのために必要な政策などについて議論をお願いしたい。

委 員: 世帯構成の割合が示されているが、単独世帯の年代別は把握しているか。

事務局： 全市的な65歳以上のデータは調査できるので、次回までに整理して提示したい。

#### ＜基礎調査結果（市民アンケート）＞

委員： 暮らし続けたいという割合が高い一方で、転出者は多いが、市民アンケートの回答者の年代の割合はどうなっているか。

事務局： 60代が27.4%を最も多く、次いで70代、50代が続いている。詳しくは合同会議の際に配布した参考資料をご覧ください。

委員： 市外への転出者の意向が反映されていないこと、また単純集計ということからもアンケート結果は鵜呑みにできないと考えられるが。

事務局： 次回までに年代等とのクロス集計結果を提示したい。

委員： 産業振興部が行った子を持つ母親に対するインタビュー形式のアンケート結果について、サンプル数が少ないがどのような方法で行われたのか。

庁内： 雇用対策に要する新年度予算要求のために担当職員が行ったもので、全市的に行ったものではない。

委員： 子を持つ親など世帯構成によってニーズも異なると考えられるが、市民アンケートでは回答者の世帯構成に関する設問はあるのか。

事務局： 世帯構成に関する設問は設けていない。

委員： 市民アンケートの「まちの魅力」に関する設問の目的が不明確なため、目的を明確にした設問とすべきだと思うが。

庁内： 今後、アンケート実施の際には、ご指摘の点を踏まえながら実施していきたい。

委員： 転入者が柏崎をどう捉えているのかという意見の集約と反映が必要だと感じている。

委員： 市民アンケートの現状の満足度で「医療機関や医療体制の充実」が低位とされているが、具体的に不満な点などを調査しているか。

事務局： 設問としては設けていないが、自由意見で記載があるのでその内容を示したい。

#### ＜総合戦略の構成概要＞

委員： 都市部の高齢者の地方部への移住という構想が提言されているが、柏崎市としてはどのような考えか。

庁内： まだ詳細の検討は行っていないが、受け入れにあたっての効果や課題という点で簡単に実現というわけにはいかないと認識している。

委員： まずは市民に対する介護サービスなどの充実ということが大切だと考えている。

委員： 今の点は、新たな雇用創出という側面がある。

委員： 総合戦略の策定期限と、先ほどの議論のなかで、改めてのアンケート実施という雰囲気を感じたが、再実施の可否について確認させていただきたい。

事務局： 総合戦略の策定については国の方針も踏まえ10月を目途にまとめていきたい。アンケートについてはクロス集計結果も実施していることから、次回以降、結果の説明も含めながら議論をお願いしたい。

委員： 若者は仕事の有無など現実的なところで選択しているので、経済的なデータなども提供していただきたい。

愛着や誇りといった我々が持つべきものを若者に押し付けるような発想よりは、我々が現状を打破していく発想が望ましいのではないか。

委員： 最重点目標に対して今の発言は「若者にもっと愛着と誇りを持って暮らせ」と受け止めていると解釈したが、私自身は「若者が愛着と誇りを持って暮らせるような状況を行政や企業などがつくっていく」と理解していたがいかがか。

庁内： 仮置き之最重点目標の言葉がこれでふさわしいかは別としても、趣旨としては「若者が愛着と誇りを持てるまちとしていく」ということで考えている。

委員： 人口減少の要因は「若い女性の市外流出」の1点に絞られる。転出する若い女性のほとんどが都市部での生活の厳しさを知らずに柏崎を離れているので、そのことを理解し、また、柏崎にいればそうではないというまちにしていく必要がある。

一定の収入を得ている男性が少ないから若い女性が戻って来ないということも考えられる。この課題の裏側には、一定の収入が得られる会社の多少や非正規雇用の増加があるのではないか。

地域の既存の資源を活かすという点では、機械金属を中心とした工業に頼るばかりではなく農業の活用も挙げられる。

柏崎の魅力をつくり上げていくには、既存の資源を活かしながら地域ブランドをつくり上げていく必要がある。これには生産・加工・販売業者が一体とならないといけない。そのための仕組みづくりが必要だと考える。

委員： 全体の大枠を決めるところから、というよりも具体的な中身から決めていったらどうかというご意見だと思うが、欠席委員からも同様の意見が寄せられている。事務局から考え方をお聞かせいただきたい。

事務局： 雇用の問題、若い女性の流出といった課題を踏まえ、今回提示した4つ柱を中心に検討していきたいと考えている。

委員： まずは大枠を決めてから、具体的なところを決めていくということで理解していただきたい。

委員： 総合戦略と総合計画の時間軸が異なるなかで、総合戦略の4つの柱が示されたが、今後の分科会での議論も控えている中で、総合計画と総合戦略の棲み分けを整理してもらいたい。

事務局： 総合戦略は、人口減少に特化したものとして集約していきたいと考えているが、方向性は総合計画と一致しなければならないと考えている。総合計画は人口問題に加えてその他の市全体の課題を踏まえながら集約していきたい。

委員： 10月までは総合戦略に注力してしまい、総合計画の議論が深まらないということになるのではないか。

庁内： 並行しているので混乱を招いているかもしれないが、総合戦略については人口減少に特化したもの、総合計画は人口減少と地域の活性化と考えてもらいたい。総合計画では各分科会で幅広く検討していただきながら、審議会で議論していただきたい。

委員： 総合戦略は、分科会ではなく審議会で検討していくということでよいか。

庁 内： そのように理解してもらいたい。

委 員： アンケートでも満足度が低かった医療や健康といった点は総合戦略には含まれないのか。

男女共同参画の観点から施策の展開イメージにわざわざ「母親コミュニティ」とあるのは意味があるのか。

一人親家庭が増加しているなか、一人親家庭が暮らしやすいまちづくりを進めながらＩターンで呼び込めないか。

事務局： 施策の展開イメージは全てを網羅しているわけではなく、あくまでイメージとして理解していただきたい。医療や健康という分野については人口減少対策として関連する施策があると思われるので、今後検討していくこととしたい。一人親家庭のＩターンについては意見として承りたい。

委 員： ここからは、最重点目標と４つの基本目標に対してご意見をいただきたい。

委 員： 期限が決まっていることから、総合戦略をまとめていくためには大胆に進めていかないといけない。

医療や保育サービスの質を求めることはきりがなく、むしろ現状でも十分、遜色がないと受け止めている。無いものを求めるよりも、今有るものを皆でしっかり磨く、あるいは高く評価していくことが大切だと考えている。

若者にとって都市部は魅力的に映るのだと思う。今すぐ柏崎が都市部と同じ魅力を備えることは難しく、まずは採用できる会社を整え、しっかりと採用していく。そしてそのことに対する財政的な支援を行っていくことをお願いしたい。

委 員： 気持ちは理解するが「若者」に限定し過ぎており違和感を覚える。

事務局： 全体的に底上げを図らなければ、人口増加には転じることができないということだと受け止めたが、若者の市外流出が課題の１つとして挙げられることから、現段階では若い世代を中心に検討していきたい。

委 員： 増加傾向にある高齢者、老々介護の問題などを無視して若者にだけ焦点をあて考えていくには無理があるのではないかと。高齢者に対する対策と若者の雇用の場の確保は繋がるのではないかと。

委 員： 若者に限定をするには無理があるのではないかとという意見が多数だされたが、私としては、総合戦略は人口減少という課題に対して柏崎市がどう対策を講じていくかが肝であることから、若者に限定することは焦点が定まり望ましいと考えている。一方で、総合計画は全ての世代に対して目を向けていくものだと考えている。

委 員： 同感である。２０代の若い女性の流出が大きいということで今回のアンケート調査からは原因などが読み取れないが掘り下げながら、スピード感を持って進めていくことが必要だと思っている。

委 員： 最重点目標の表現は工夫をすればよいのではないかと考えている。基本目標は提示されたものでよいと考えているが、旧柏崎と旧高柳でも地域性は大きく異なるので、基本目標に地域性を取り込みながら肉付けするのはどうかと考えている。

委員： 施策の展開イメージの産業振興に「観光」が無いが、長期的な取組として地域ブランドをつくり上げていく必要がある。そういった意味で「観光」を重点的に見直していく必要があると考えている。

委員： 最重点目標に「若者が愛着と誇り」とあるが、この点には主観的な満足と客観的な状況という側面があり客観的な状況とは「雇用」、「愛着と誇り」とは主観的な想いであり、主観的な心の問題と客観的な経済の問題を2つの言葉でうまく表現されるような言葉を用いるとよいのではないかと考える。

次回まで、今回の意見を踏まえ事務局から案を提示していただければと思う。

庁内： 実質的には初めての議論であり、熱心にご議論いただき御礼申し上げたい。総合戦略と総合計画の並行した検討作業ということで混乱を生じている点もあるかと思うが、まずは現状について共通認識を持っていただきながら、今後、さらに熱心なご議論をお願いしたい。

## 5 その他

### (1) 第3回審議会

9月1日（火）午後3時30分から 柏崎市役所4階 大会議室

### (2) 市民フォーラム

8月5日（水）午後6時から 柏崎市産業文化会館 文化ホール

・増田寛也氏（元総務大臣）を招聘しての基調講演、パネルディスカッションなど

### (3) 市民ワークショップ

8月22日（土）、29日（土）、9月5日（土）

・若い世代の市民15名と市役所職員15名によるワークショップ